

技術開発全体計画

関東森林管理局

課 題		高年齢級人工林の施業体系の確立				開発期間	平成１９年度～令和３年度			
開発箇所	茨城森林管理署 筑波山国有林	担当 部署	森林技術・ 支援センタ ー	共同 研究 機関	森林総合 研究所	技術 開発 目標	(3) (5)	特定 区域 内外	◎	
現 状 と 問 題 点	林業の採算性が悪化する中、皆伐の頻度を低くし育林コストを抑えることや森林の持つ多面的な機能を持続的に発揮させることを目的に、伐期の長期化が行われている。しかしながら、長伐期化に向けて必要な施業についての試験・研究データは極めて少ない現状にある。一方で、１００年を超える人工林や長伐期施業の将来モデルとなりうる高年齢級人工林が少ないが存在している。									
開発目的 (数値目標)	現存する高年齢級人工林の林分構造や過去の施業履歴を明らかにし、長伐期施業体系を確立する。また、現存する高年齢級林分に対し施業を行い、超長伐期（１６０年程度）のモデルとなる展示林を造成する。									
開発方法	・高年齢級林分の林分概況とこれまでの過程（施業、成長）の調査 １００年生以上の林分に５０ｍ×５０ｍのプロットを設定し、そのプロット内の植栽木のサイズ、密度、これまで進入してきた広葉樹のサイズ、密度、植栽木の品等区分、これまでの間伐や被害木処理による伐根のサイズと新旧区分などの調査。プロット内に５０ｍ×１０ｍの箇所を設け、その中の進入木の調査。これまでの施業履歴の調査（場合によっては聞き取り調査など）。間伐や被害木処理時における樹幹解析。 また、間伐前後の林況の変化（樹冠成長等）についても調査。 ・高年齢級林分のモニタリング ・超長伐期のモデルとなる展示林の造成									
年 度 別 計 画	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４～３９年 度				
	１．プロットの設定と調査 ２．施業履歴の調査 ３．林内撮影	１．施業履歴の調査 ２．林内撮影	１．林分概況の作成 ２．林内撮影 ３．中間報告書の作成（説明資料の作成）	１．プロット内の調査 ２．データの収集と分析	１．林分概況の整理 ２．データの管 と分析 ３．説明資料の見直し	１．林分概況の作成 ２データの管理と分析				
技術開発委員会における意見等										